

労使研

労使関係研究協会
〒105-0014
東京都港区芝2-20-12
友愛会館9階
TEL:03-3453-5386
FAX:03-3451-1710

関西支局
〒550-0001
大阪市西区土佐堀1-6-3
JAM西日本会館内
TEL:06-6225-2881

「情報」第63号 2023年1月

賀正

本年もよろしくお願ひ申しあげます



2023年 新年のご挨拶

一般財団法人日本労働会館
代表理事 宮本礼一



明けましておめでとうございます。

2023年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

世界は新型コロナウイルスの終息が見えない状況下に加えて、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化に伴う物流の停滞などで食料価格や燃料価格が高騰し、わが国でも電力料金をはじめ食料・生活必需品などの物価上昇が止まらず、多くの国民の間で閉塞感が漂う一年でした。

今年も暮らしや経済の先行きが見通せない状況が続くことが予想されますが、皆様には健やかな日々を過ごされますよう願っています。

さて、昨年は労使関係研究協会が発足して満40年という節目の年ではありましたが、新型コロナウイルス拡散防止のための国や自治体からの行動制限要請もあり、前年に引き続き、予定されていた事業の殆どを中止せざるを得ない状況となってしまい、会員団体や個人会員の皆様には多大なご迷惑とご心配をおかけしました。

労使関係研究協会では、今年も新型コロナウイルス感染拡大防止対策を最優先に考え、当面は対面参集による企画の停止を検討せざるを得ず、関係各位のご理解とご協力を改めてお願いしたいと思います。

また、(一財)日本労働会館としては、もう一つの公益事業である友愛労働歴史館の活動を通じて、友愛会・総同盟の歴史を継承しつつ、戦前から戦後の労働運動をはじめ、政治・社会の動向をとらえた研究とその成果を社会に提供しています。

しかし、ここ数年間は新型コロナ禍により、労使関係研究協会事業と友愛労働歴史館事業を支える(一財)日本労働会館の財政的基盤が危機的状況に陥り、関係各位にはご心配をおかけしましたが、当財団の一部資産の売却や宿泊事業の立て直しや関係団体などの支援などもあり、2023年は何とか明るい兆しが想定される中で新年を迎えることができました。

雇用や経済情勢を取り巻く環境は、まだまだ厳しい状況が続きそうですが、この一年を希望に満ち溢れる年にしていくために、皆さんと共に精進していくことをお誓いして、2023年の年頭のご挨拶とします。

友愛労働歴史館の活動

I 展示会・講演会活動について

1. 展示会（常設展）活動

展示会活動は常設展を開催してきた。

(1) 常設展

「日本労働運動の100年余-友愛会・総同盟(戦前)を中心とする」は、2012年8月1日のオープン以来、原則同一内容で開催している。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という格言から、労働運動の歴史は不変であるとの思いから常設展を開催している。

来館者の推移をみると、2022年1月18名、2月29名、3月25名、4月29名、5月24名、6月54名、7月116名、8月88名、9月14名、10月66名、11月19名、今年を通算514名が来館した。新型コロナに関わる規制緩和とともに団体見学も回復傾向で、来館者は増加している。また、コロナ禍の規制緩和の中でも団体移動に懸念する組織から出張講演を望む声が大きくなり、2022年1月より出張講演を積極的に受けることにした。そして、出張講演の受講者数を来館者数に加味することとした。出張講演受講者数は全体の33.8%にあたり、延べ167名に及ぶ。

2012年8月1日の新装オープン以来の延べ入館者数(名)は、11,100名(2022年11月末日現在)となった。



友愛労働歴史館公式WEBページ

2. 講演会活動

(1) 講演会（出張講演）

例年は、企画展と連動させた講演会・労働講座を労使関係研究協会や友愛会創立を記念する会と共催、もしくは単独で開催していた。

賛同会員の組織等から講演依頼については積極的に受けている。コロナ禍で集団移動に懸念をする組織が多く、出張講演は好評を得ている。

①UAゼンセン・フジグループ労働組合連合会トップセミナー(藤吉館長)

6月16日(木)、演題「未来に向けた労働組合が果たすべき役割」で、労使関係の考え方と生産性運動の三原則～厳しい環境下における労使関係～」。生産性運動三原則の今日的な理解、あるべき労使関係は友愛会から同盟への発展の中にあり。参加者合計32名。

②UAゼンセン・専門店ユニオン連合会「2022年度労使懇談会」(藤吉館長)

7月27日(水)、演題は「労使関係の考え方と生産性運動の三原則～厳しい環境下における労使関係～」。同盟的なコーポレートガバナンス(企業統治)の具体的なあり方、生産性運動三原則の今日的な理解、あるべき労使関係は友愛会から同盟への発展の中にあり。会社側24名、組合側37名の合計61名の参加。

③UAゼンセン流通部門・伝承塾「惟一塾」逢見直人塾長(藤吉館長)

8月29日(月)～31(水)、演題「次世代に期待すること」として、労働組合主義と労使関係の考え方、生産性運動の三原則とあるべき労使関係、労働組合の必須である政治活動、反自民非共産の思想。参加者合計16名(延べ48名)

④UAゼンセン広島県支部・第5回夜間学習会(藤吉館長)

10月6日(木)、演題「労働運動の先人に学ぶ～次世代に期待(伝承)すること」として、鈴木文治、松岡駒吉のメッセージと友愛会系同盟の精神と行動。産業別労働組合の役割と責任、労働運動と政治、私たちの労働運動思想、同盟的なコーポレートガバナンス(企業統治)の具体的なあり方、生産性運動三原則の今日的な理解、あるべき労使関係は友愛会から同盟への発展の中にあり。参加者合計 26名

⑤UAゼンセン・流通部門結成10周年記念講演・レセプション・出張講演(藤吉館長)

12月9日(金)、演題「産別統合とその後の流通運動」の中で、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージを伝えるとともに、政治の必要性を話した。参加者合計132名

Ⅱ 資料の収集・管理作業、調査・研究活動について

友愛労働歴史館は年間を通し、資料の収集・管理、必要な調査・研究活動に取り組んでいる。

1. 資料の収集・管理

書籍など資料のリユースを行う労働資料協に加盟し、各種資料や情報の入手に取り組んでいる。

2022年度(第37回)社会・労働関係資料センター連絡協議会定期総会と研修会が、10月24日～25日に開かれた(次ページ)。

友愛労働歴史館には今まで個人・団体から寄贈を受けた資料が未整理状態にあり、当館倉庫(友愛会館地下1・2階)に保存している。年間を通し、これらの資料の整理作業に取り組んでいる。

また、書籍など資料のリユースを行う労働資料協に加盟し、各種資料や情報の入手に取り組んでいる。

また、2022年度（第37回）社会・労働関係資料センター連絡協議会定期総会と研修会が、10月24日～25日に開かれた。

友愛労働歴史館には今まで個人・団体から寄贈を受けた資料が未整理状態にあり、当館倉庫（友愛会館地下1・2階）に保存している。年間を通し、これらの資料の整理作業に取り組んでいる。

2. 調査・研究活動

友愛労働歴史館は常設委員会として「ユニテリアンと社会運動研究会」、「政治・社会運動史研究会」の2つを設置しているが、新型コロナウイルスへの対応のため2022年中間期は、両常設委員会を開催することはなかった。

また、特別委員会として井堀繁雄研究会を設置しており、梅澤昇平調査研究員を主査とし井堀繁雄（労働運動家・協同組合活動家・政治家・日本労働会館理事長・全金同盟組合長）に関する調査・研究を行ってきた。井堀繁雄が残した手帳・日誌のデジタル化作業や評伝『井堀繁雄—労働運動・協同組合運動に生きた男—』（仮題）の制作に取り組んでいる。

(1)調査研究員会議が2月17日（木）、友愛労働歴史館展示室にて、9名の出席をもって開催された。開会にあたり徳田館長より、日本労働会館の現状と友愛労働歴史館の今後のあり方について挨拶を受けた。

報告事項として、①日本労働会館・三田会館の現状について②友愛労働史館2021年の活動について③歴史館の役員・調査研究員について。確認事項として、①新たな調査研究員の選任について、現友愛労働歴史館副館長の間宮悠紀雄氏が選任された。②今後の活動について活発な意見交換がなされた。

①井堀繁雄研究会（代表：梅澤昇平 氏）が3月24日（木）、友愛労働歴史館書庫閲覧室にて、9名の出席をもって開催された。本研究会は、2018年に発足。井堀繁雄（労働運動家・政治家・協同組合運動家）の資料の取集・管理・研究に取り組んできた。

井堀繁雄は、1915年八幡製鐵所に務め、1918年神戸川崎造船所の職工に転じ、1919年友愛会に加わり、1921年（大正10年）の川崎・三菱大争議に参加し、検挙され、同時に解雇、6カ月投獄された。そして日本労働学校を卒業した1925年に埼玉県・現在の草加市の大阪窯業に入社。その後、埼玉・川口を拠点に総同盟運動に取り組む。また、社会民衆党埼玉県連書記長、同党中央委員、社会大衆党埼玉県連執行委員を歴任した。

戦後、総同盟再建に加わり、日本労働組合総同盟副会長、全国金属産業労働組合同盟会長（現JAM）や日本労働会館の理事長を務めた。また政治家として、西尾末廣国務大臣秘書官、経済安定本部員など活躍した人物である。

研究会では、①井堀繁雄の生涯とその意義②井堀繁雄研究会について報告した。

Ⅲ 情報発信・PR活動について

友愛労働歴史館は、インターネットを利用したメールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信、ホームページでの情報提供・PRなどに取り組んでいる。また、研究者・学生等への相談対応、資料提供などに取り組んでいる。

1. メールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信

2022年1月以降10月の間、172号(1月20日)、173号(2月24日)、174号(3月29日)、175号(4月25日)、176号(5月27日)、177号(6月28日)、178号(7月29日)、179号(8月25日)、180号(9月29日)、181号(10月27日)、182号(11月30日)まで発信。2022年11月末現在のメールアドレス登録者は1308名。

2. 労働歴史館ホームページ

友愛労働歴史館は情報提供用にホームページを開設、随時更新している。

3. 労働歴史館・公式ツイッター、その他による発信

友愛労働歴史館は公式ツイッター(@yuairekishikan1912)で情報発信している。その他、当館常設展チラシその他を活用し、紙媒体でのPR活動を行っている。また、希望者へ当館紹介用スライド「ようこそ友愛労働歴史館へ」、常設展解説スライド「日本労働運動の100年余」などのデジタル情報を提供している。

Ⅳ その他

1. 友愛労働歴史館は所蔵する資料を活用し、民主的労働運動や民主社会主義運動、ユニテリアンゆかりの社会運動に関する研究者・学生の調査・研究に協力している。また、これら資料の閲覧者へ便宜を図っている。そのため書庫横に「資料閲覧室」を設置し、閲覧コーナー(定員3名。スキャナー完備)と会議室(会議形式8名)を設けた。これらは当館調査研究員の利用も想定している。

2. 社会・労働関係資料センター連絡協議会(労働資料協)の2022年度第7回定期総会と研修会が、10月24日～25日、(一財)日本鉄道福祉事業協会の労働資料館(東京都品川区西五反田)で開かれた。

総会は2021年度活動報告、2022年度事業活動を確認後、日本鉄道福祉事業協会の労働資料館の見学と研修会・意見交換を行った。友愛労働歴史館からは藤吉館長と安部千恵さんが参加した。

翌25日(火)は国会図書館国会分館を視察、その後国会議事堂見学と公益財団法人日本交通公社「旅の図書館」の視察・研修を行った。

労働資料協は労働運動や社会運動の資料のリユースを行う団体で、大原社会問題研究所・連合資料室・東京都労働資料センター・同志社大学人文科学研究所・大阪産業労働資料館(エル・ライブラリー)など23の加盟機関と個人会員から構成されている。



労使関係研究協会の活動

1. 労働講座紹介事業

労働講座全28講座の講演録についてまとめの作業を進めている。

2. 労使関係研究協会の活動見直し

公益事業改革の論議の中で、あり方委員会の討議も踏まえ検討を進めている。

3. 情報第62号の発行

年2回発行している労使研「情報」を2022年10月に発刊、会員各位に送付した。

- (1) 友愛会創立110周年を記念する会の開催
- (2) 日本労働遺産の認定について
- (3) 友愛労働歴史館の活動について
- (4) 労使関係研究協会の活動について

4. 大会メッセージの送付

2022年度、11月会員56組合に大会メッセージを送った。

2022年8月以前：8組合

2022年 9月 ：29組合

2022年10月 ：18組合

2022年11月 ： 1組合

5. 友愛会創立を記念する会の開催

2022年8月1日、コロナ禍のため現役中心に参加者を絞り込んで開催した（友愛会館9階大会議室）。

東京観光・出張・受験の宿泊は
ローズステイ東京芝公園をご利用ください



ローズステイ東京芝公園
公式WEBページ

日本労働運動の100年余

友愛会・総同盟（戦前）を中心とする



友愛会誕生の地、ユニテリアン教会・惟一館（現友愛会館）明治27（1894）年

日本労働運動に曙をもたらしたのは、高野房太郎や片山潜らによる1897年（明治30年）の労働組合期成会の結成です。しかし、期成会は宣伝啓蒙団体であり、1901年に解散し、その運動は断絶します。

今日の連合へと繋がる日本労働運動の源流は1912年（大正元年）、ユニテリアン教会・惟一館で鈴木文治により創立

された友愛会です。友愛会は多くの労働者の支持を得て拡大、1921年には総同盟へと発展し、戦前期の日本労働運動の主流となります。

戦後、友愛会は1946年に総同盟として復活。その流れは何回かの合流・分流を繰り返した後、1964年以降は同盟を本流とし、総評や中立労連の中に伏流水として流れ続けました。そして1989年、連合が結成され、日本の労働運動は新たなスタートを切りました。

本常設展は、期成会・友愛会から連合へと至る日本労働運動の100年余の歩みを、戦前期の友愛会・総同盟を中心に解説しています。

第一部 労働運動前史 福澤諭吉とユニテリアン

友愛会創立のきっかけを創った福澤諭吉や友愛会創立を支えたユニテリアン教会のマッコレー牧師を取り上げ、彼らの理念「独立自尊」、「人間の尊厳、進歩・発達」が後の友愛会綱領と通底していることを明らかにしています。



福澤諭吉



クレイ・マッコレー

第二部 戦前の労働運動 1897年～1940年

労働組合期成会を組織した高野房太郎や片山潜も、先達者として紹介しています。また、友愛会を創立した鈴木文治、友愛会を総同盟へと発展させた松岡駒吉、西尾末広、賀川豊彦を紹介しています。



鈴木文治



松岡駒吉

第三部 戦後の労働運動 1946年～

1946年、総同盟と座別会議の結成からスタートした戦後の日本労働運動が、総評や全労会議の結成から近江絹糸争議などを経て、労働4団体（総評・同盟・中立労連・新産別）時代に至り、さらに1987年の民間連合、1989年の官民統一連合の結成へと発展する姿を、写真や解説パネルで紹介しています。



第四部 友愛会、鈴木文治・松岡駒吉のメッセージ

常設展のまとめとして「友愛会は友愛組合」であること、鈴木文治のメッセージは「人間性と職業能力の向上」、松岡駒吉のメッセージは「産業人論と健全なる労働組合主義」であることを紹介し、その時代を貫く普遍性を明らかにしています。

友愛労働歴史館

〒105-0014 東京都港区芝2-20-12 友愛会館8階
一般財団法人日本労働会館内
TEL.050-3473-5325 FAX.03-3451-1710
E-mail: yuairodorokishikan@rodokaikan.org
http://www.yuairodorekishikan.com

資料の閲覧、団体での見学は、
お電話またはE-mailにて、お問い合わせください。



<お知らせ>

新型コロナウイルス感染リスク低減のため、友愛労働歴史館は年末年始休暇とあわせ12月28日（水）から1月4日（水）まで休館します。